

# 社会とのコミュニケーションは、環境マネジメントの大切な要素です。

環境教育も含めて、社会と常に情報を共有する努力を払っています。

## 1 社会的貢献活動

[http://www.ntt.co.jp/kankyo/2002report/qa/chapter5/q01\\_2.html](http://www.ntt.co.jp/kankyo/2002report/qa/chapter5/q01_2.html)  
<http://www.ntt.co.jp/kankyo/2002report/qa/chapter5/q02.html>

「NTTグループ地球環境憲章」は、「地域住民、行政等と連携した、日常的な環境保護活動への支援に努める」ことを基本方針の一つにあげています。2001年度も各地域で積極的な環境保全活動に取り組みました。

びわこNPOネットの立ち上げ(NTT生活環境研究所)  
 NTT生活環境研究所は、環境市民団体、NPO市民団体と提携し、2001年11月に滋賀県で第9回世界湖沼会議が開催されたことを機会に、環境市民団体の活動の活性化を図るためにウェブサイト「びわこNPOネット」を立ち上げました。

札幌EMSネットワークの発足(NTTドコモ北海道)  
 NTTドコモ北海道は、札幌市環境局と連携し、2001年11月に、札幌市内のISO14001認証取得企業、団体等と、札幌EMSネットワークを発足させました。

NTT-MEワールド・バード・カウント(NTT-ME)  
 NTT-MEは世界最大のバードウォッチングイベント「第7回NTT-MEワールド・バード・カウント」を2001年10月1日から1ヵ月開催しました。今回は、環境学習の一環として参加する小学校も多くありました。

エコロジー・コミュニティ・プラザでは、地域密着の活動を展開(NTT西日本滋賀支店)

2001年5月、地域エコロジー活動の基礎固めの拠点として、淡海ネットワークセンターと連携を図りITに関わる部分について地域支援を行いました。そして、市民参加型環境情報ネットワーク共同プロジェクトの一環として運用されている「ボランティア・コーディネーション・システム」についても支援をしました。

## 2 情報提供と共有

<http://www.ntt.co.jp/kankyo/2002report/qa/chapter6/q02.html>

NTTグループでは、環境保全推進のための情報を広く提供すると同時に、情報提供の場を設けてきました。

環境goo大賞(NTT-X)

NTT-Xの環境情報ポータルサイトである環境gooは、消費者、企業・自治体、NGOの環境保全の情報発信を応援するために環境goo大賞を主催しています。環境goo大賞は、『ウェブサイト部門』と、プロジェクト実行資金を寄付する『活動部門』の2部門で構成しており、それぞれの部門において表彰しました。



環境goo大賞を発表したホームページ

「NTT-ATテクノフェア2001東京」の開催(NTT-AT)  
 2001年9月、東京・新宿NSビルにおいて、「ビジネスを熱くするテクノロジーがある」をテーマに「NTT-ATテクノフェア2001東京」を開催いたしました。今回のフェアは、環境、医療、電子自治体、eビジネス、ブロードバンド、ITを支える光・LSI製品の6つのカテゴリで約50点を揃え展示し、約2,000名のお客さまでにぎわいました。

「地球環境フォーラム」の開催(NTTドコモ四国)  
 四国の循環型社会形成に向けて2002年3月、「第4回地球環境フォーラム」を開催しました。作家の立松和平氏による「自然とともに」と題しての基調講演の後、「環境と共生する地域づくり」をテーマに熱いパネルディスカッションを展開しました。

同様のフォーラムは、NTTドコモ、NTTドコモ中国、NTTドコモ九州でも開催しました。



NTT-ATテクノフェア2001東京



地球環境フォーラム

## 3 環境コミュニケーション

<http://www.ntt.co.jp/kankyo/2002report/qa/chapter6/q04.html>

NTTグループでは環境保護活動報告(ウェブ版と冊子版)を始めとして、環境関連情報の公開により社内外とのコミュニケーションを図っています。また、2001年度はNTTグループが提言する「エココミュニケーション」の考え方を広く普及するための積極的な広告活動を展開しました。

社内

教育・啓発活動

NTTグループでは、新入社員をはじめ全社員を対象に開催するセミナーや、環境パンフレット、環境教育ビデオ「森と少年」CD-ROM「地球共生テレコミュニケーションNTT」などを通じて教育、啓発に努めています。また、ホームページ上に「NTTグループ社員も『環境を、話そう』」というコーナーを設け、社員が自らの体験を語る機会をつくりました。2001年度は環境情報ネットワークや燃料電池の研究開発に携わっている人が登場し、環境に関する思いを語ってくれました。

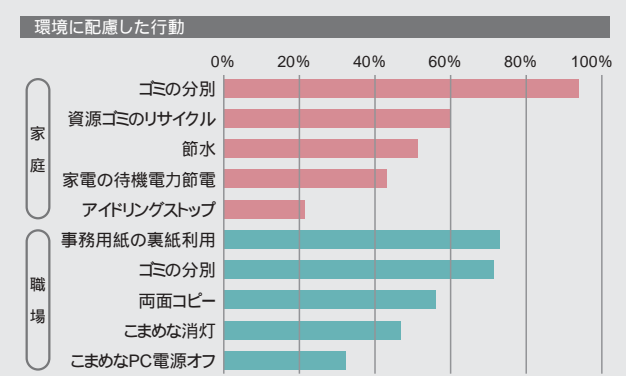
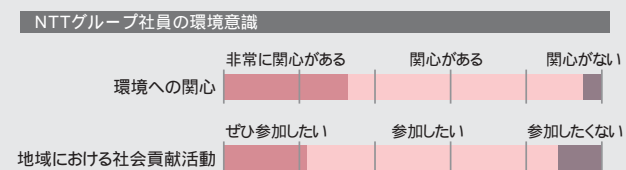
表彰

NTT(持株会社)、NTT東日本、NTT西日本、NTTデータでは、環境保全に関する顕著な成果を上げた個人、グループに対する表彰制度を設けています。

社員の意識調査

毎年社員約1,000人を対象にした環境意識調査を行っています。

【調査結果の一部】



環境への関心は95%と高く、ゴミの分別や事務用紙の裏紙利用は浸透しています。しかし、こまめなPC電源オフは32%でした。今後、社内に対して啓発活動・社内広報をさらに進めていきます。

社外

環境報告書の発行とホームページ公開

NTTグループ環境保護活動報告書2001を発行し、ホームページ上でも情報発信を行うとともに、読者へのアンケートも実施しています。

環境広告の展開

NTTグループでは、「いつでもどこでも、環境について自由に対話し、交流する」という意味を込めて「エココミュニケーション」をキーワードに、環境活動とその考え方について、世間に広く知っていただくための広告展開をしています。

【環境広告の実施/雑誌広告7誌・パナー広告8サイト】

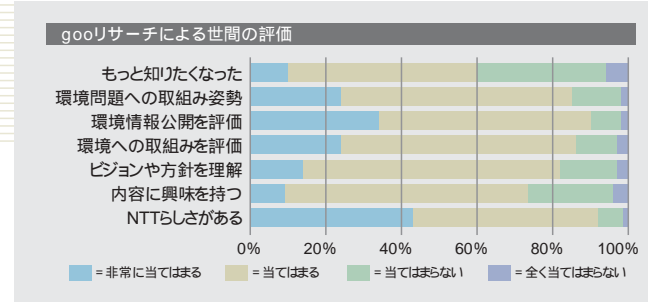


また、著名人によるウェブ対談「クロストレーキング・オン・ジ・アース」を始めました。2001年度は、野口健氏、ジャック・モイヤー氏に「山から考えるエコロジー、海から考えるエコロジー」をテーマに環境問題を語り合っていました。

NTTグループの環境保護活動に対する調査

2002年3月にNTTグループの環境保護活動に対する調査をNTT-Xのgooリサーチで実施しました。30代の方々を中心に、1,216名からご意見をいただきました。

【調査結果の一部】



全体の意見としては、「環境問題が重要だと分かった」「NTTの考え方、行動が分かった」との評価を頂きましたが、一方で「子どもでもわかる表現が必要」「全部読むのは大変」などまだまだ、難し過ぎるとの意見もありました。

個別の代表的な意見は以下の通りです。

「表現の工夫に好感が持てる」「技術を活かして率先して環境負荷の削減を実行して欲しい」「ITと環境とは関連があることを初めて知った」「もっと環境保護活動に関してTVや新聞でPRすべき」

こうしたご意見は、今後の環境保護活動、環境コミュニケーションに反映させていきたいと考えています。